



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和5年1月10日
新年号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆



家族のやくめ

校長 三瓶 淳

「よいお年を～」

昨年の授業最終日。下校時に正門に立ち、たくさん子どもたちとやり取りしながら、家路につく後ろ姿を見送りました。クリスマスやお正月は、誕生日と並んでわくわくする大イベントです。サンタさんは、望んだものを間違いなく届けてくれたか、その日ばかりは寝坊せずに起きる子どもたちですね。我が家では、かつて一度だけ、願いと違うものが届けられ、長男が大泣きしたのを覚えています。サンタさんは大慌て・・・親子でなぜか泣いていました。

さて、この年末年始も実家福島に帰省して、のんびりと・・・と、いくはずでした。年末、実家に夕方着くと、母が独り待っていました。今年90歳になる母は、91歳になる父をこれまでヘルパーさんの力を借りながらもなんとか在宅で介護してきました。しかし、暮れに父が熱を出したことをきっかけに大きな病院へ入院し、担当医の治療方針を聴く限りでは、今後父が我が家に戻ることはなくなりました。私的には、両親どちらにとってもよりよい方向へいくと思っていましたが、このことを境に母の話す内容が怪しくなり始めました。急いで、掛かりつけ医院に連れて行き、診察してもらったのですが、検査結果も含め後日、詳しい説明を受けることになりました。

次の日からは、大掃除をしたり、ご近所に挨拶して母の様子を見てもらうようお願いしたり、食事の用意も片付けもほとんど私がやりました。その間、母の繰り返す質問に対し、気を落ち着かせて「優しく」と思いながらも「だからさ～」と言ってしまい、自己嫌悪に陥っていました。その時、ふと自分の子どもの頃を思い返してみました。確かに、自分の部屋ぐらいい自分で掃除しましたが、気が付けばお風呂がきれいになっていて、美味しいご飯の準備や片付けも親が当たり前のようにしていました。そして、「今はそれが逆転しただけで、私の番になっただけのこと」と考えました。「それが、家族なんだ」と。そのように思うと親がしてくれたことは、無償の愛であり、それに改めて気付けたことや恩返しする機会が残されていることに感謝の念しかありませんでした。

本校の子どもたちも年末年始は、久しぶりに帰省し、ご両親のご実家で過ごされたかと思います。子どもたちは、自分の親が実家で過ごす姿を見ながら、また家族のよさを再認識したり、親の意外な面を再発見したりするのではないかと思います。家庭が子どもたちの心安らく場であることは、子どもたちの生育に大きく影響します。今後も互いを認め合い、温かな家庭を築き上げていってほしいと願っています。

今回の帰省で母にお願いしたのは、お袋の味として大好きな雑煮を出してもらうことでした。横になっていたお袋に声を掛け、一緒に台所に立って作りました。変らぬ味で、本当に懐かしく、美味しかった～♪「おかわり！」



卯年（うさぎ年）になりました。関東地方は穏やかな年末年始で、初日の出をご覧になった方も多かったのではないのでしょうか。うさぎは、多産や繁栄、飛躍の象徴ともされているようです。本校は、令和5年度に創立123年となります。故アントニオ猪木さんの掛け声をお借りすると「1・2・3 ダア～（脱兎）」と、語呂合わせもできそうです。後ろ足にぐっと力を入れて、ぴょんと飛躍していき、そんな素晴らしい1年にしていきたいと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。